

公開シンポジウム

遺伝子から見た熱帯林 —消えゆく熱帯雨林は救えるか?—

熱帯雨林は生物多様性の宝庫として知られていますが、近年になって伐採や大規模な森林開発のために多くの熱帯林が失われつつあります。地球の温暖化と共に生物多様性の減少への対策は今後私たちが地球レベルで取り組むべき大きな課題の一つとなっています。本研究プロジェクトでは東南アジアの熱帯雨林を舞台に遺伝子をキーワードとして遺伝学と生態学の接点から、森林の成立、更新と多様性維持のメカニズムを探ろうとしています。このことは森林劣化とは何かを明らかにし、さらには劣化を食い止める手段を提供することにつながると考えています。

本シンポジウムでは4人の演者により環境省地球環境研究総合推進費 (D-0901)を得て行われた熱帯林の最新の遺伝子研究の成果を紹介し、熱帯林とは何か、またその多様性を守るためにどのような方策が今後可能なのかを考えて行く機会としたいと思っています。

プログラム

「熱帯林の遺伝的多様性は高いのか?—フタバガキ科樹木集団について—」
原田光 (愛媛大学農学部)

「森林伐採は熱帯林の遺伝的多様性を減らすか?
—ボルネオ島のフタバガキ樹木の場合—」
伊東明 (大阪市立大学大学院理学研究科)

「DNAから解き明かす熱帯林土壌微生物の多様性と機能」
岩永廣子 (京都大学大学院農学研究科)

「造林による熱帯林の修復—インドネシア・ジャワ島における人工林の構造」
二宮生夫 (愛媛大学農学部)

日時: 2011年12月17日 (土) 13:00~16:00

場所: 大阪市立大学文化交流センター・ホール

大阪市北区梅田1-2-2-600 (大阪駅前第2ビル6階)

参加費: 無料 *事前申し込みは不要です。当日、会場へ直接お越しください。

お問い合わせ: 原田光 (089-946-9870, kharada@agr.ehime-u.ac.jp)

伊東明 (06-6605-3167, itoha@sci.osaka-cu.ac.jp)

